

「小河内」便り 第49号 平成29年9月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 安福孝昭）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

日本列島真夏の太陽が照り付け、暑い、暑い、と言っていた夏、今太陽が南へ向かい、秋分の日を過ぎ秋の気配が漂います。気温の差が大きい時期、体調管理をしっかりしましょう。

目次

田舎暮らし体験塾 秋野菜づくり（事前準備）	・・・P1～2
白島小学校稲刈り（9月20日）	・・・P2
今後の予定	・・・P3
小河内情報	・・・P3
・夏祭り	・・・P3
・小河内の初秋	・・・P4
編集後記	・・・P4

田舎暮らし体験塾

秋野菜畑づくり（事前準備）

農業は段取り、事前の準備が必要、そのため天気予報を見ながら何時種を蒔くか、そのためには何時土づくり（PH調整や有機肥料）、耕起をするか、これには経験が要るが同時に考える、判断力が要る。農業は作業ではなく、この判断が重要と言われる。帰郷したての頃、近所の古老からここでは白菜は8月28日、29日、30日、この3日間の内に蒔け、と教えられた。



白菜の種まき（ポットで育てる）



トラクターで耕し整地する



畝立て機で畝をつくる



マルチ張

広島市立白島小学校 体験授業（稲刈り）

9月20日、白島小学校5年生約80人が今年5月、田植えをした田んぼで稲刈りの体験授業に参加した。過疎の地に終日元気な子どもたちで賑わった。



最初に小河内のまちづくりについて話を聞く



鎌で稲刈り、難しい、と言っていたが・・・



講師から教えてもらいハデかけの体験をする
約20日間天日干しにする、今はコンバイン
で刈り取り、脱穀するため少なくなった



コンバインで脱穀の手伝い

今後の行事予定

月日 (曜)	行事	内容
10月1日 (日)	安田女子大	稲刈り
10月14日 (土)	第5回体験塾 さとやま未来博	柿もぎと吊るし柿の作り方 同、弥太郎ハウス見学
11月4日 (土)	秋祭り前夜祭	昭和劇団「田舎芝居」奉納 神楽奉納
11月5日 (日)	養山八幡神社秋季大祭	神事、吹き囃子行事
11月11日 (土)	第6回体験塾	餅つき
12月16日 (土)	第7回体験塾	門松としめ縄づくり
1月7日 (日)	第8回体験塾	トンド (自治会行事に参加)
2月3日 (土)	第9回体験塾	味噌と豆腐づくり
3月3日 (土)	第10回体験塾	閉講式

小河内情報

小河内どんどん夏祭り

8月13日、旧小河内小学校グラウンドで夏祭りが行われ約250人が参加した。



台風18号により行事を中止

下記行事は台風18号による大雨が予報され、急遽中止となった。

- ・第4回田舎暮らし体験塾 ダイコン種まきと白菜の移植 (9月16日)
先延ばしが出来ない為、9月21日に行いました。
- ・敬老会 (9月17日)

今年の敬老会招待者 (75歳以上) は155名、これは全住民の3人に1人です。
因みに高齢率 (65歳以上の割合) は60%です。

小河内の初秋



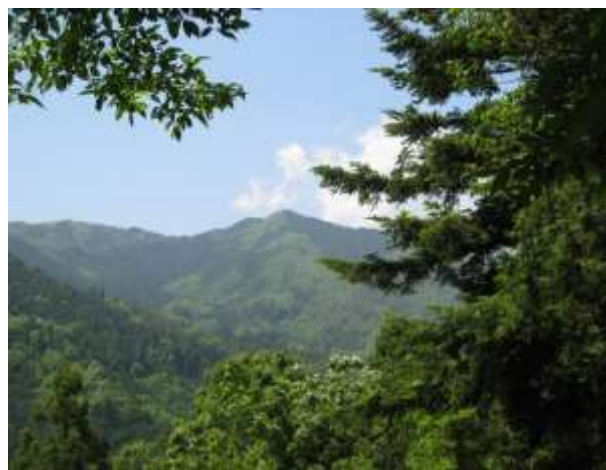
どんどん農園のひまわり（9月21日撮影）



稔りの秋（上三根地区の棚田）



猛毒を持つマムシ



小河内の最高峰滝山（691m）沢田より

編集後記

人口が減り続け、やがて人がいなくなれば、その地域は消滅する。

2014年、日本創生会議・人口減少問題検討委員会（増田寛也代表）が発表した「消滅可能性都市」によると人口の再生産を担う若年女性人口（20歳～39歳）が、2010年から2040年に5割以上減少する都市を「消滅可能性都市」と仮定。これによると全国で約半分の896の自治体が消滅しかねない、という。安佐北区はこの30年間に約50%減少すると云う。我が小河内の2010年の若年女性は30人が2017年（8月末）は18人に減少（既に40%減）、13年後の2040年はどうなっているか。高齢率60%、後期高齢者が3人に1人、という人口構造から見ても近い将来人口の急減、数集落が消滅、やがて地区全体に及ぶことが危惧される。

平成29年8月末、235世帯、428人。

自治会やOプロが活性化に取り組んでいるが、若い世代も含めて、この厳しい現実を見つめ、この小河内をどうするか、真剣に考え、行動しなければならない（S）